

# 会話における参加の組織化の研究

—日本語会話における「話し手」と「共—成員性」の産出手続き—

串 田 秀 也

# 目次

トランスクリプトに用いる記号一覧	1
1章 序論	
1 はじめに	3
2 相互行為の秩序	3
3 文脈依存性を解消しないこと	5
4 相互行為の「内部の」社会構造	8
5 行為の記述と「文化」社会学	11
6 意図と慣習：語用論的コミュニケーション研究との対比	15
7 参加の組織化という問題	18
8 本稿の目的と構成	21
2章 参加の組織化と連鎖装置	
1 はじめに	24
2 「話し手」「聞き手」概念の解体	24
3 ターンテイキング組織と参加の組織化	26
3. 1 ターンテイキング組織	26
3. 2 ターン構成と参加の組織化	27
3. 3 ターン配分・オーバーラップ・オーバーラップ解消装置	30
4 連鎖組織と参加の組織化	32
4. 1 連鎖組織のタイプ	32
4. 2 隣接ペアによる行為スペースの投射	33
4. 3 前置き連鎖による拡大された行為スペースの投射	35
5 データの概要と若干の方法論上の問題	37
5. 1 データの概要	37
5. 2 若干の方法論上の問題	39
6 結論	41
3章 オーヴァーラップ発話の再生と継続	
1 はじめに	42
2 ターン冒頭再生と日本語の遅れた投射性	43
3 再生と継続の働き	44
3. 1 再生の働き	44
3. 2 継続の働き	47

4	中断されたオーバーラップ発話の再生と継続	51
4. 1	中断された発話の再生	52
4. 2	中断された発話の継続	55
5	日本語におけるターン冒頭再生の論理	57
6	結論	58
4章 言葉を重ね合わせること		
1	はじめに	60
2	オーバーラップとユニゾン	60
3	ユニゾンの可能性	63
3. 1	高められた予測可能性	63
3. 2	権限の緩みと参入権限	67
4	相互的ユニゾン	68
5	共同的ユニゾン	73
6	引用のユニゾン	78
7	結論	81
5章 「そう」と「うん」：ターンスペースと行為スペースへの参加の再組織化		
1	はじめに	84
2	協働的ターン連鎖	85
2. 1	先取り完了	85
2. 2	協働的ターン連鎖の第三の位置の「そう」と「うん」	87
2. 3	遅れた完了	91
3	協働的ターン連鎖と他の発話連鎖との交差によって組織された「そう」と「うん」	93
3. 1	ターンスペースへの権限と発話連鎖上のスロットへの権限	93
3. 2	先取り完了のやり直しに先立つ「そう」と「うん」	95
3. 3	遅れた完了のあとの「そう」と「うん」	99
3. 4	「そう」と「うん」の後続発話	102
4	通りすがりの受け手性表示としての「そう」と「うん」	105
4. 1	投射された行為スペースの拡張	105
4. 2	「そう」と「うん」の脱線阻止用法	108
5	結論	111
6章 経験を語り合うこと：拡大された行為スペースへの競合的共参加		
1	はじめに	114
2	私事語りの機会づけられた開始	116
2. 1	もうひとつの事例	116

2. 2	理由説明への埋め込み	118
2. 3	小括	119
3	興味の相互的モニター	119
3. 1	部分的報告：聞き手の興味のモニター	119
3. 2	先に進む機会の提供：語り手の興味のモニター	121
3. 3	語りの展開をめぐる交渉	123
4	共通経験の探索と発見の手続き	125
4. 1	探索スペース	125
4. 2	共通経験の主張と報告	127
4. 3	経験の差異の主張と理由説明	130
4. 4	先取りされた私事語りの承認	132
5	事例研究：共通経験の探索・発見・ひもとき	134
5. 1	共通経験の探索	134
5. 2	共通経験の発見	138
5. 3	共通経験の競合的ひもとき：「豊穡な話題」の形成	142
5. 4	小括	145
6	結論	146
7章 討論		
1	はじめに	148
2	時間の中での参加の組織化	148
2. 1	参加の道具としての言葉	148
2. 2	参加・投射・自己	151
3	もうひとつの社会学的探究	154
3. 1	内側からの分析	154
3. 2	一般的拘束	156
4	相互行為の「文化」	159
4. 1	コミュニケーション論における西洋中心主義の相対化	160
4. 2	ターンテイキング組織の「文化」と普遍性	161
4. 3	連鎖組織の「文化」と普遍性	165
4. 4	小括	168
5	結論	168
注		171
補遺	①本稿で用いる会話分析の基本用語	186
	②「はまる」話	192
初出一覧		195
引用文献		196